

看護闘争ニュース

NO. 82

2006年 9月14日

2006 秋増員闘争推進・看護要求実現全国交流集会

秋に“看護師ふやせ”の大きな世論を！10.27 集会の成功を！

全国集会は、9月6～7日、静岡県伊東市で7全国組合・42県医労連248名の参加で、開催されました。医労連産別の力を総結集し「看護師ふやせ」の運動をと、恒例の「看護要求実現全国交流集会」を、今回は「増員闘争推進・看護要求実現全国交流集会」として、中央執行委員会・増員闘争本部・看護闘争委員会が共同で開催することになりました。

1日目の全体集会は、北川（全医労委員長）増員闘争本部委員と、大村看護闘争委員長の司会で、田中日本医労連委員長が開会あいさつを行いスタートしました。西川書記長の「2006年度の増員闘争の推進について」基調報告では、看護師不足を社会問題化させた各地の奮闘を紹介しながら、増員署名の早期達成、10.27中央集会を成功させながら、要求を基礎に06秋の大運動を積極的に展開し、増員闘争を飛躍させようと呼びかけました。

井上看護闘争事務局長の「看護課題の当面する強化点等について」の補強報告では、看護をめぐる情勢の2つの特徴点、看護配置をめぐって激化する攻防、看護師不足が一大争点に、新人看護職の早期退職が問題になる中、看護基礎教育と卒後研修の制度化が浮上、の状況を報告しながら、日本医労連として、2つの政策と要求（「確保法・基本指針の実効ある改正を求める要求（素案）」「看護教育をめぐる基本的な考え方と要求」）を対峙している内容が説明されました。また、診療報酬改定に伴う「新たな看護基準の内容とたたかひの留意点」を説明しながら、「増員・労働条件改善で離職防止し、働き続けられる職場作り」を経営者にも認めさせることや労働組合の運動の重要性が強調されました。

特別報告では、「増員署名1人10筆の達成をめざすとりのくみの経験」（全厚労・岩佐書記長）「ナースウェーブの成

功など県医労連のとりくみの経験」（広島県医労連・亀井委員長）「05秋闘で増員9名、06春闘で10名の増

員を勝ちとった！」（盛岡医師協・代理として岩手菊池看護闘争委員）「准看護師から看護師へ・看護制度一本化めざして」（宮城県医労連・松田本部看護闘争委員）から報告がありました。どの報告も、「頑張れば要求は実現する」の確信を参加者に与え、激励する内容でした。

全体討論では、「『看護署名はいのち』と集めまわっている。マイバックにいつも署名を入れていつでも出せるようにしている。東京の山手線宣伝は効果絶大。みんなに見られて楽しかった」（東京・佐藤）「『署名の宮崎』と異名を持つ宮崎支部では、現在2000筆を越えている。スーパーの前で恒例の署名活動を行なっていると、『他のものもやってください』と商店の人に言われて、血圧測定を始めた。『看護師がきちんと図ってくれるので安心』等の声とともに、病院への注文も出てくる。まさに一石二鳥」（全医労・淀）成果主義賃金を30時間団交で徹底して闘い阻止（全労災・横山）などなどがイキイキと報告されました。

2日目は、5つの「増員闘争推進分散会」と、「夜勤協定の推進・改善」「長時間夜勤・2交替制問題」「医療事故防止・看護改善」「2年課程通信制・看護制度」「目標管理、成果主義賃金問題」の5つの分科会に別れ、活発な討論が行なわれました。まとめの集会では、分散会・分科会からの報告と西川書記長の集会のまとめが行なわれました。



配置基準の改定によって「2極化」傾向が生まれていることも強く感じますが、視点を変えれば、今まで医労連が掲げてきた「200万人看護体制」の要求も、より現実味を増してとらえる情勢だと思えます。社会保障の課題などでは、医療改悪反対など「守り」のたたかひになってしまい、悪政に押されっぱなしですが、この増員闘争では「攻め」のたたかひができる条件が揃っていることを感じました。

なぜ今マスコミにこのようにとらえてもらえているのか、経過が理解できた。「いまこそチャンス！」を掲げ運動を頑張っていこうと思う。



確保法の闘いのポイントが示され、今後、議論しやすく、現実性が出てきてとても具体的だと思います。

毎月のように署名活動をしている広島の報告、元気をもらいました。

宮城の松田さんの報告が良かった。あらためて移行教育情報センターの活動を取り組まねばと思いました。

盛岡の報告が心に残りました。現場のつらさは、現場が一番わかっている。職場の叫びをひろい、要求を組織したたかう以外に増員は勝ち取れない。現場に持ち帰りたい。

参加者の感想

平成19年度看護職員確保対策予算の概算要求を発表

厚労省医政局看護課

平成19年度の要求額は、86億6900万円で対前年度比102.6%（平成18年度予算額84億5100万円）となっています。

新規事業は、「資質の向上（6億6200万円）」の項目で、新人看護職員の資質を向上させるための研修のしくみ等について検討を行う「新人看護職員研修のあり方に関する検討会」の設置として600万円、「離職防止・再就業の支援（3億9900万円）」の項目で、「看護職員の多様な勤務形態による就業促進事業（900万円）」が新設されました。この事業は、多様な勤務形態により看護職員を活用している医療機関の事例の収集・紹介を行うとともに、医療機関の人事・労務担当者に対する普及研修を実施するとなっています。

そのほかには、新規事業はありません。その他の項目では、「養给力の確保（52億1300万円）」「看護職員確保対策の総合的推進（3700万円）」「医療提供体制推進事業費補助金（158億2700万円）」「医療提供体制施設整備交付金（124億1700万円）」の各項目が予算立てされています。